



栄光の未来

R7.3.19 発行
第 28 号

新たな歴史を創った！令和6年度終了

令和6年度も、今日が登校最終日となりました。この1年間を振り返ると、生徒の皆さんが主体となって新たなことに挑戦したり、自分たちの声で学校を動かしたりして、昨年度以上に「生徒の手による学校づくり」を推進してくれたと感じます。

前例踏襲を当たり前とせず、また、大人からの指示を待つだけでなく、よりよい学校を目指して皆さんが自主的・主体的に取り組んだ成果をいくつか振り返ります。

1 全校の声を聞いて、夏季の体育着登校を実現！

昨年度も生徒からの声を受けて夏季の体育着登校を実施しましたが、今年度はその過程が大きく異なりました。体育着登校を求める生徒が生徒会に働き掛け、生徒会がアンケートを実施して全校生徒の希望をまとめ、その結果をもとに生徒会が校長に体育着登校の許可を求めました。より説得力をもって皆さんが学校に働きかけた結果、体育着登校が許可されました。

2 東翔祭・合唱発表会を、いっそう「生徒主体」で実施！

東翔祭は、コロナ禍によって規模を縮小し、種目数も減らして行っていましたが、今年度は全校種目として「大玉送り」を新たな種目として取り入れました。

また、東翔祭・合唱発表会のいずれも、閉会式での表彰を校長が行うのではなく、行事の中心的な存在である実行委員会が担当して、「生徒主体」をさらに推進しました。

3 全校生徒がかかわって、「校内生活の心得」の見直しを実施！

いわゆる「校則」の見直しを、生徒会が主導して行いました。そもそも校則は必要なのか。現状に合っていない校則はないか。いろいろな角度から現行の心得を見直し、地域の大人の声も聞きながら、大胆に、かつ勇気と覚悟をもって大幅な改正に取り組みました。大人の決めた枠に収まるのではなく、自分たちで学校生活のルールをつくるという「自治」の姿そのものでした。

先日行われた今年度最後の生徒朝会で、長谷川生徒会長からは『「あいさつ、返事、掃除」の3本柱をこれからも大切にしていこう』という呼びかけがありました。東石山中の伝統を大切にするとともに、今年度以上に新たな伝統を創り上げていくことを、皆さんに期待しています。

「校歌」に想いを込め、堂々と歌う姿を示したい

三本柱の他に、これからの皆さんに期待したいことがあります。それは、皆さんが自分たちの手で学校を創り上げている現在の取組をいっそう推進し、東石山中学校を今以上に誇れる学校にしてもらいたいということです。

全校生徒がその決意を姿、態度で表す方法の一つが、「校歌」であると考えています。皆さん全員が、体育館に大きく響き渡る声で校歌を歌うことは、学校への誇りと愛着をより確かなものにするはずです。声の大きさは、自信と誇り、愛着の表れです。お互いの想いや一体感を感じる校歌斉唱ができる学校であってほしい、それができる皆さんであってほしいと願っています。

4月の入学式では、皆さんが新入生に校歌を披露します。堂々と校歌を歌う先輩としての姿を、ぜひ新入生に見せてください。

東石山中学校 校歌
連なる越後の山なみに
輝きみちる 東の光
青春のひとみを挙げて
創造の 英知を磨く
われら 日本の若い力

校歌の1番の歌詞